

2012.7.20(金)  
～ 8.19(日)

発  
掘  
調  
査  
速  
報  
展

沖縄県立埋蔵文化財センター企画展

2012

沖縄県立埋蔵文化財センター



## ごあいさつ

沖縄県内には貝塚、グスク、集落跡や古墓群など約2,500箇所以上の遺跡が確認されています。沖縄県立埋蔵文化財センターでは、先人が残したこれらの埋蔵文化財の発掘調査を行い、考古学的見地から検証した成果を沖縄の歴史・文化の研究に役立てています。

通常、発掘調査の開始から出土品を整理し、報告書を刊行するまで数年を要します。そこで、前年度の発掘調査で得られた最新の情報をいち早く公開するため、「発掘調査速報展」を毎年開催しております。

今回の「発掘調査速報展2012」では、平成23年度に調査を行った沖縄本島・離島を含む8事業の発掘調査および詳細分布調査の概要と主な成果について、出土遺物や写真パネル等で紹介しております。

首里城跡は昭和59年度より27年間にわたって発掘調査が行われており、平成23年度は銭蔵東地区、御内原東地区、淑順門東地区において実施されました。これらの3地区で、特に御内原地区からは、当時の城壁やゴミ捨て場、トイレ跡と思われる遺構など、日常生活の側面をうかがわせる興味深い成果が得られています。

また、宮古島市上野字宮国において実施された宮国元島上方古墓群の発掘調査では、埋葬された人骨とともに、簪（かんざし）や煙管（きせる）など数多くの副葬品が確認されています。しかもその多くが良好な保存状態であり、今後の調査研究を進める上で、たいへん貴重な資料となりました。

この速報展を通じて、多くの方々が当センターの発掘調査と沖縄県の埋蔵文化財について親しみをもち、その価値や重要性について理解を深めていただける機会となれば幸いです。

平成24年7月20日

沖縄県立埋蔵文化財センター  
所長 崎濱文秀

# 平成 23 年度調査実施箇所

## 沖縄本島

海軍病院建設予定地内  
発掘調査



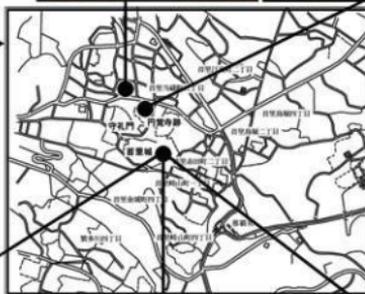
基地内文化財  
分布調査



中城御殿跡発掘調査



松崎馬場跡発掘調査



県内遺跡詳細分布調査  
(座間味村・渡嘉敷村)



首里城跡発掘調査  
「淑順門東地区」



首里城跡発掘調査  
「銭蔵東地区」



首里城跡発掘調査  
「御内原東地区」



## 宮古島



宮国元島上方古墓群  
発掘調査



## 戦争遺跡詳細確認調査（県内全域）

久米島



北大東村



名護市



中南部



## 平成23年度発掘調査一覧

事業名	所在地	時代区分
中城御殿跡発掘調査	那覇市首里大中町1丁目1～3番	近世、近代
首里城跡（銭蔵東地区・御内原東地区・淑順門東地区）発掘調査	那覇市首里当蔵町3丁目1番	グスク時代～近代
松崎馬場跡発掘調査	那覇市首里当蔵町1丁目1番	近世、近代
宮国元島上方古墓群発掘調査	宮古島市上野字宮国カムザマ858-43番地、858-96番地、アナガア812-90番地	近世～現代
県内遺跡詳細分布調査	座間味村、渡嘉敷村	先史時代～近代
海軍病院建設予定地内発掘調査	宜野湾市普天間（キャンプ瑞慶覧内）	縄文時代、グスク時代、近世、近代
基地内文化財分布調査	宜野湾市（普天間飛行場内）	縄文時代、近世、近代
戦争遺跡詳細確認調査	沖縄県全域	近代

# けんない い せきしょうさいぶん ぶ ちょう さ 県内遺跡詳細分布調査

事業名：県内遺跡詳細分布調査

調査地：座間味村、渡嘉敷村

時代：先史時代～近代

調査期間：2011年（H23）7月12日～8月12日

調査内容： 観光立県を標榜する沖縄県ではリゾート開発などの観光に係る大規模な開発事業がとくに離島地域を中心に目立つようになってきました。このような開発に伴う土木工事の前に埋蔵文化財の調査を実施することが法律で義務付けられています。しかし、遺跡がどこに、どのように残っているのかといった基礎情報が無ければ、事前に埋蔵文化財の調査を行うことはできません。そこで遺跡の基礎情報を得るための分布調査を行なっています。

沖縄県及び市町村教育委員会ではこれまでに県内各地域の埋蔵文化財の分布状況を把握するための詳細分布調査を実施し、各種開発に対応するための基礎資料作りを行ってきました。しかし、慶良間諸島（渡嘉敷村、座間味村）並びに東村においては未だ詳細な分布調査が実施されていない地域となっていました。このことから平成22年度から平成27年度にかけて国庫補助事業で詳細分布調査を実施しています。

対象とする時期は先史時代（貝塚や集落跡など）から1945年の沖縄戦時に利用された戦争遺跡（構築壕や避難壕など）までで、昨年度は約2ヶ月の期間で遺跡分布調査を座間味村内において実施しました。

主な成果としては現在無人島となっている座間味村の安室島・安慶名敷島・嘉比島で先史時代の遺跡を今回の調査で新たに確認しました。その他に屋嘉比島にて明治期の集落跡を、座間味島において座間味集落や阿真集落の住民が戦時中に使用した避難壕の確認を行いました。

渡嘉敷島においては昨年の台風や長雨のために自然崩落が進んでいる船越原遺跡の現状地形の記録するために地形測量を実施しました。



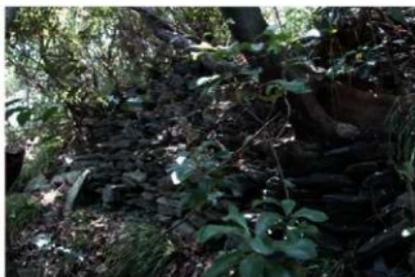
嘉比島北側海岸の土器散布状況



安室島東海岸の遺物散布地 遠景



積グスク石積み遺構（積城島）



シルグスク石積み遺構（座間味島）



西浜の水路遺構（座間味島）



屋嘉比集落の貯水池（屋嘉比島）



屋嘉比島棧橋跡（屋嘉比島）



御真影奉護塚（座間味島）

# まつざき ば ば あと は つ く つ ち ょ う さ 松崎馬場跡発掘調査

事業名：首里城公園発掘調査

所在地：那覇市首里当蔵町 1-1

時代：近世、近代

調査期間：2011年（H23）11月7日～12月28日

調査内容：平成23年度は松崎馬場を通る道の道幅を調べる目的で、2本のトレンチを設定しました。

トレンチ1については、後世の開発によって破壊されていたため道路跡がほとんど残っていませんでした。

トレンチ2については、道路の東側については縁石や道路面が残っていましたが、西側は後世の開発によって破壊されていたため、道幅を確認することはできませんでしたが、トレンチ内で発掘された道幅は縁石から計測して最大で約3.5m残っていました。

道路面には小さく砕いた石灰岩が敷き詰められて舗装されていました。

## ■ 松崎馬場とは ■

首里城を起点に北へ延びる道に沿って設置された広場です。首里城の北にある龍潭という池の東側にあります。中国から来た冊封使を接待するときに龍潭でハーリーが行われましたが、それを観覧するための席が松崎馬場にありました。



(平成19年株式会社グラフィカ作成の1/2500に沖縄県教育庁文化課作成の「首里城跡測量図」を重ねて作成)



発掘現場の遠景 (写真中央)



県立芸大旧図書室跡にトレンチを入れて  
発掘を実施



発掘作業状況



遺構の検出状況 (奥に龍潭が見える)



緑石 (中央) と道路面 (下)

事業名：首里城跡発掘調査

所在地：那覇市首里

時代：グスク時代～近代

調査期間：2011年（H23）7月1日～2012（H24）3月27日

調査内容：首里城跡の発掘調査は、沖縄戦で焼失してしまった首里城の復元整備を行うために必要な情報を得ることを目的としております。今年度の調査地点は、銭蔵東地区、御内原東地区、淑順門東地区の3ヶ所で実施しており、地区ごとに調査成果を紹介いたします。

## ぜいくらひがしちく

## ■ 銭蔵東地区 ■

首里城の北東部にあたり、泡盛を保管していた建物があった場所の東側となっております。

調査の結果、戦前まであった銭蔵と区切る南北方向に伸びる城壁の基礎部分を確認することができました。この城壁は、切石を使っており、下方は布積み（長方形の石を横に積む）、上方は相方積み（多角形の石を重ねて積む）と2通りの積み方がなされているので、積み替えがあった可能性があります。この城壁は、その出土遺物から16～17世紀以降に造られたものと考えられます。城壁下の地層は、一部ずれた痕跡が見られ、その原因は地震や大雨なのかは今のところ特定できません。ただ、この地層はクチャという脆い泥岩の風化土壌であり、崩れやすい場所であったことは確かで、城壁の積み替えもそのためと思われるます。

また、自然の石をそのまま積んだ野面積みのものもあり、15世紀後半～16世紀前半に作られ、17世紀頃には埋められてしまったものと考えられます。この石積みを埋める土は、地山であるマーヅ（赤土）を利用した明褐色土と瓦や陶磁器・獣魚骨・貝など城内のゴミと思われるものを含んだ暗褐色土が相互に斜め方向で堆積しているところから、比較的短期間で人の手によって埋められたものと考えられます。

この石積の下層には炭を多く含んだ黒褐色土があり、15世紀後半～16世紀と考えられる多くの貝類・獣魚骨・陶磁器が集中して出土しており、やはりゴミと思われるます。貝類はヤコウガイやサラサバティなど、螺鈿をとるために利用する貝が多く見られることから、城内のどこかで螺鈿製品が作られていた可能性も指摘できます。

以上のことから、この銭蔵東地区では建物などは確認されませんでした。15世紀後半～17世紀には城内のゴミ捨て場であったのではないかと考えております。



銭蔵東地区 全景



銭蔵東地区 石積下層のヤコウガイなどの捨て場

**■ 御内原東地区 ■**

「テンベスト」でも話題になった女性だけの世界である御内原の東側にあたります。

調査の結果、戦前まであった城壁を確認できました。この城壁際にトレンチを設けて、下層を掘ると、16～17世紀の土層の上に築かれていたことが分かりました。また、この城壁に埋もれた石積があり、15世紀頃の炭が多く入った土層にも埋もれており、より古い石積があったことが分かりました。

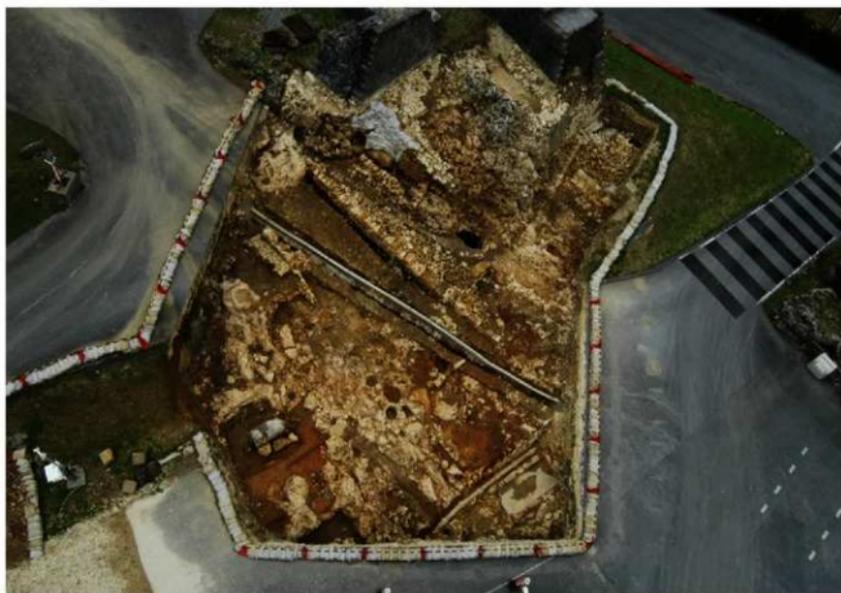
また、興味深い遺構としては、幅0.8m、長さ1.5m、深さ1.5mの岩盤を掘り込んだ落ち込みが見られ、この上端に幅10cm、長さ20cm、深さ20cmの長方形の溝状に刻まれているものがあります。この溝状の刻みは、昔沖繩にあった「フル」というトイレの便槽の形に似ています。この遺構は先述の城壁を作る段階で埋められていました。今後、土の分析など更なる検討が必要ですが、御内原と言われた場所の隅にあることから、もしかしたら女官たちのトイレであったかもしれません。

**■ 淑順門東地区 ■**

御内原に入る「淑順門」の東側の城壁周辺を調査しました。

調査の結果、城壁の内外面の基礎部分とそれを支える裏込め部分を確認し、この城壁の幅が5mあることが分かりました。また、この城壁の裏込めは全て50cm以下の自然のままの石灰岩を使っており、土を使わずに城壁を作ったこともわかります。また、この裏込めの中には、やや不整形ですが石が列状に並んでいるところもあり、適当に入れたのではなく一定の決まりがあった可能性も考えられます。

また、この城壁と直交する幅1mの小規模な石積も確認されています。この石積は2m程度途切れている部分があり、淑順門と東側を区切る入り口であったものと思われます。石積は15世紀の炭が多く入った土層の上に築かれており、19世紀後半までには埋まったことが出土遺物より分かりました。また、15世紀頃に火災による火熱を受けたと思われる地面も確認しています。



御内原東地区 全景



御内原東地区 戦前まであった城壁



御内原東地区 落ち込み (南より)



淑順門東地区 途切れのある石積



淑順門東地区 戦前まであった城壁

# なかぐすく う どうんあととはくつちよう さ 中城御殿跡発掘調査

事業名：首里城公園発掘調査

所在地：那覇市首里大中町 1-1

時代：近世、近代

調査期間：2011年（H23）8月1日～2012（H24）1月19日

調査内容：平成23年度の調査では、敷地南側において7本のトレンチを設け311㎡の面積で発掘調査を実施しました。

トレンチ2では、大広間の軒先のラインを示す石と掘り込みが見つかりました。

トレンチ4では、御番所<sup>うばんじよ</sup>の軒先にあった石畳とそこから南に伸びる建物のラインが残っていました。また石垣は一番下の石が一部残っていました。

トレンチ5では、取納座<sup>しよのうざ</sup>の軒先にあった石畳と、そこから南に延びる石垣が残っていました。またサンゴ片を敷いた当時の地面が残っていました。

トレンチ7では、30cm前後の石灰岩礫<sup>れん</sup>を多く含んだ造成層を確認しました。またトイレ跡と見られる石組みを確認しました。

また、正門の東側（トレンチ1～4）では地山のクチャが確認されましたが、西側（トレンチ5～7）ではクチャが確認されず、大規模な土地のかさ上げが行われていることがわかりました。

## ■ 中城御殿の歴史 ■

中城御殿は、次の琉球国王となる世子が暮らした邸宅です。当初その建物は、17世紀前半に現首里高等学校敷地内（現首里真和志町）に創建されました。その後、1875（明治8）年に現在の首里大中町であるこの場所に移転し、1945年の沖縄戦で破壊されるまで存在していました。今回調査の対象とするのは、移転後の中城御殿を指します。



左からトレンチ1～4



トレンチ5（左下）、トレンチ6（左上）  
トレンチ7（右）



かいぐんびょういんけんせつ よてい ち ないはくつちょう さ  
**海軍病院建設予定地内発掘調査**

事業名：海軍病院建設予定地内発掘調査

所在地：宜野湾市普天間（キャンプ瑞慶覧内）

時代：縄文時代、グスク時代、近世、近代

調査期間：2011年（H23）8月1日～2012（H24）3月14日

調査内容：本事業は、宜野湾市にある米軍基地内（キャンプ瑞慶覧）において、病院建設に伴って現状のまま残すことができない埋蔵文化財の記録を作成することを目的とした緊急発掘調査です。

平成23年度の調査は、普天間古集落遺跡が広がる範囲において実施しました。その結果、縄文時代、グスク時代、近世～近代の3時期に相当する遺構や遺物が確認されました。

縄文時代に相当する遺構には土坑があります。直径1m、深さは2mを超える大きなものもありました。このような土坑は複数見つかっています。遺物はほとんどみられません。中には、土器の口縁部や石斧が出土した土坑もありました。これらがどのような用途のものか、詳細は分かっていません。今後検討していきたいと思います。

グスク時代に相当する遺構としてはピット（柱穴など）が検出されています。数あるピットの中から平面的な位置関係や埋土などを検討した結果、二本の中柱を持つ掘立柱建物跡など、複数の建物跡を想定することができました。遺物はグスク土器、カムイヤキ、滑石製石鍋片などが見つかっていますが、量はそれほど多くありません。

近世～近代に相当する時期は遺構・遺物ともに最も多く確認されています。遺構は、土地を区画するように調査区を縦横断する溝のほか、ピット、土坑、方形に石を積んだ石組遺構、井戸、炉跡などが検出されました。その他にも、戦時中、住民が避難するために掘ったと考えられる壕も見つかりました。遺物は日本産や沖縄産、中国産の陶磁器類を中心に、石製品、金属製品、ガラス製品、自然遺物など、多種多様な資料が出土しています。



縄文時代の土坑



石斧出土状況



掘立柱建物跡



方形にめぐる溝



塚と考えられる遺構内遺物出土状況

# きちないぶんかざいぶんぶちょうさ 基地内文化財分布調査

事業名：基地内文化財分布調査

所在地：宜野湾市（普天間飛行場内）

時代：縄文時代後期～晩期、近世、近代

調査期間：2011年（H23）11月15日～2012年（H24）3月23日

調査内容：この調査は、沖縄県内の米軍基地や自衛隊基地内にある埋蔵文化財（遺跡）の分布状況や遺跡の性格などを把握することを目的に、平成9年度から文化庁の補助を受けて実施し、今年で15年目を迎えます。昨年度は平成20年度から引き続き、平成19年度の当事業による試掘調査によって新たに発見された、おおやまかゝらばら大山加良当原第四遺跡の確認調査を行いました。

この遺跡は試掘調査の段階で、近世・近代の層と縄文時代とみられる層の二つの文化層が確認され、平成22年度の確認調査で近世・近代の層から2つの溝状遺構（SD001・002）が検出されていました。この年には調査期間の制約もあり、SD001を半分発掘したところで終了しましたが、昨年度はSD001の残り部分とSD002を発掘したところ、SD002の方が規模は大きく包蔵する遺物も多いことが分かりました。またこれら遺物から、この遺構が概ね近代頃のものであることが確認されました。さらにその周囲には柱か柵の跡とみられる穴も3口検出されました。他に近世・近代の層からは、壊れた食器を廃棄したとみられる碗などが集中する土坑（遺物廃棄土坑）が検出されています。

また試掘調査で縄文時代と予想されていた層からは、遺構は検出されなかったものの、およそ30個の縄文土器片と磨製石斧の刃部片1点が出土しました。縄文土器は、たいど胎土から縄文時代後期の土器と晩期の土器とみられますが、縄文時代後期の土器は一箇所にまとまって出土し、一方で縄文時代晩期の土器は磨製石斧の付近で出土するなど、出土位置に特徴がみられます。これが何を意味するのかは今後の重要な課題です。



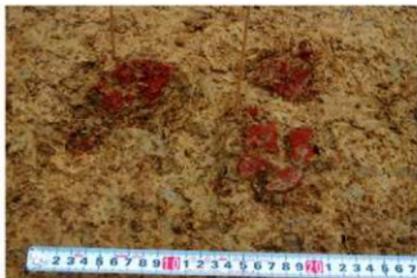
基地内文化財分布調査 調査区全景（近世・近代の層）



遺物廃棄土坑（近世・近代）



溝状遺構（近世・近代）完掘状況



縄文土器出土状況



磨製石斧出土状況

# せんそう い せきしょうさいかくにんちょう さ 戦争遺跡詳細確認調査

事業名：沖縄県戦争遺跡詳細確認調査

調査地：沖縄本島及びその周辺離島、北大東島

時代：近代

調査期間：2011年（H23）7月1日～2012年（H24）年2月27日

調査内容：平成10年度から平成17年度まで実施した沖縄県戦争遺跡詳細分布調査では沖縄県内において979カ所もの戦争遺跡が確認されました。この成果を踏まえて平成22年から残存状況が良好で歴史的に重要な戦争遺跡を選別し、詳細な遺構確認のための調査を行っていく方針の下、国庫補助事業による沖縄県戦争遺跡詳細確認調査事業を5ヶ年計画で行っています。

過去、太平洋戦争および沖縄戦において構築、利用された人工壕や自然壕、塹壕、そして棧橋跡や砲台跡といった構築物、兵舎跡や監視哨跡といった建造物、更に忠魂碑や奉安殿といった国威高揚の石碑などが戦争遺跡の対象となります。それらを将来的には保存、公開、活用へ向けての基礎資料に資することを目的としています。

昨年度は調査委員会を3回開催し、沖縄本島中部9カ所、同南部で11カ所、同北部で6カ所、同周辺離島12カ所、北大東島4カ所と計42カ所の戦争遺跡を訪れました。そして、現地での確認調査では調査対象地の市町村教育委員会並びに関係機関と連携をはかりながら実施しました。またこの確認調査を踏まえた形で個々の戦争遺跡における評価や調査方法についての議論も並行して行いました。

戦争体験者が少なくなってきた昨今、戦争遺跡は太平洋戦争、沖縄戦を知る上で更にその重要性が高まっていくと思われまます。

## ■ ウカマジーの海軍砲台跡（北谷町嘉手納基地内）■

正面にあるフェンスには「HOSPITAL CAVE（病院壕）」と書かれた看板がありますが、これは戦後、砲台跡から医療器具や薬品が見つかったために米軍が「病院壕」と勘違いして設置したとされています。

## ■ 桜花とは（沖縄市嘉手納基地内）■

旧日本海軍が開発したロケット飛行機で、機体前方には1,200kg爆弾が固定されています。この飛行機は空中で爆撃機から切り離された後、ロケットエンジンで飛行して敵艦船に突入し、操縦士もろとも自爆する特攻兵器です。



与那城の監視哨跡（うるま市）



ウカマジーの海軍砲台跡（北谷町）



桜花の掩体壕群（沖縄市）



喜久村家の防空壕（久米島町）



新里壕（八重瀬町）



北山の陣地壕群（波嘉敷村）



黄金山の陣地壕群（北大東村）



早田壕（名護市）

みやくにもとしまじょうほう こ ほ ぐんはつくつちょう さ  
**宮国元島上方古墓群発掘調査**

事業名：宮国元島上方古墓群発掘調査

所在地：宮古島市上野字宮国カムザマ 858-43 番地、858-96 番地、アナガア 812-90 番地

時代：近世～現代

調査期間：2011 年（H23）5 月 24 日～6 月 10 日、10 月 31 日～12 月 9 日

調査内容：22 号墓は昨年度の調査区の西側に位置する近世期の古墓です。この墓は石灰岩塊下部の岩陰を利用して、墓口周辺を高さ 1 m 前後の野面積みの石積みで囲った墓庭を有する古墓です。墓庭の西側には出入口が設けられており、墓庭内部には沖縄産陶器や蔵骨器として使ったと思われる宮古式土器が一括して多量に廃棄されているのが確認されました。また、墓庭のすぐ外側からも宮古式土器のみがまとめて出土しました。

墓室は約 1 m × 1.5 m、高さ 1 m と狭いですが、床面は全面に多量の人骨で覆われ密集した状況が確認されました。四肢骨はバラバラの状態を確認されたため、葬られた人の数までは明らかにすることはできませんでした。ただし、頭骨は 10 以上確認されたことから集団墓であったものと思われます。

そして、これら人骨に混じって、副葬品と思われる沖縄産陶器や宮古式土器、本土産陶磁器、中国産染付、煙管、簪などが確認されています。これらの遺物は近代以前のもは見られなかったため、おそらく近世期（18・19 世紀頃）には墓として使用されていた古墓だと思われます。

23 号墓も岩陰を利用しており、入り口は石積みとセメントで閉じられていました。墓室は幅・奥行きが 1 m、高さは 0.7 m で、大人 1 人がしゃがんで入れる程度の広さです。

墓室内からは近現代の陶磁器やビニール片、ガラス片、運転免許証などが出土しました。成人女性 1 体、未成人 1 体の骨が、墓室中央～奥にかけてバラバラの状態で出土しました。また火葬された成人 1 体の骨が墓室奥からまとまって出土しました。



22号墓 全景 (西から)



22号墓 墓口石積除去後状況



22号墓 墓庭 (上方から)



22号墓 墓室 (西から)



22号墓 墓庭 (南から)



22号墓 北西部遺物集集中地点 (南西から)



23号墓 外観

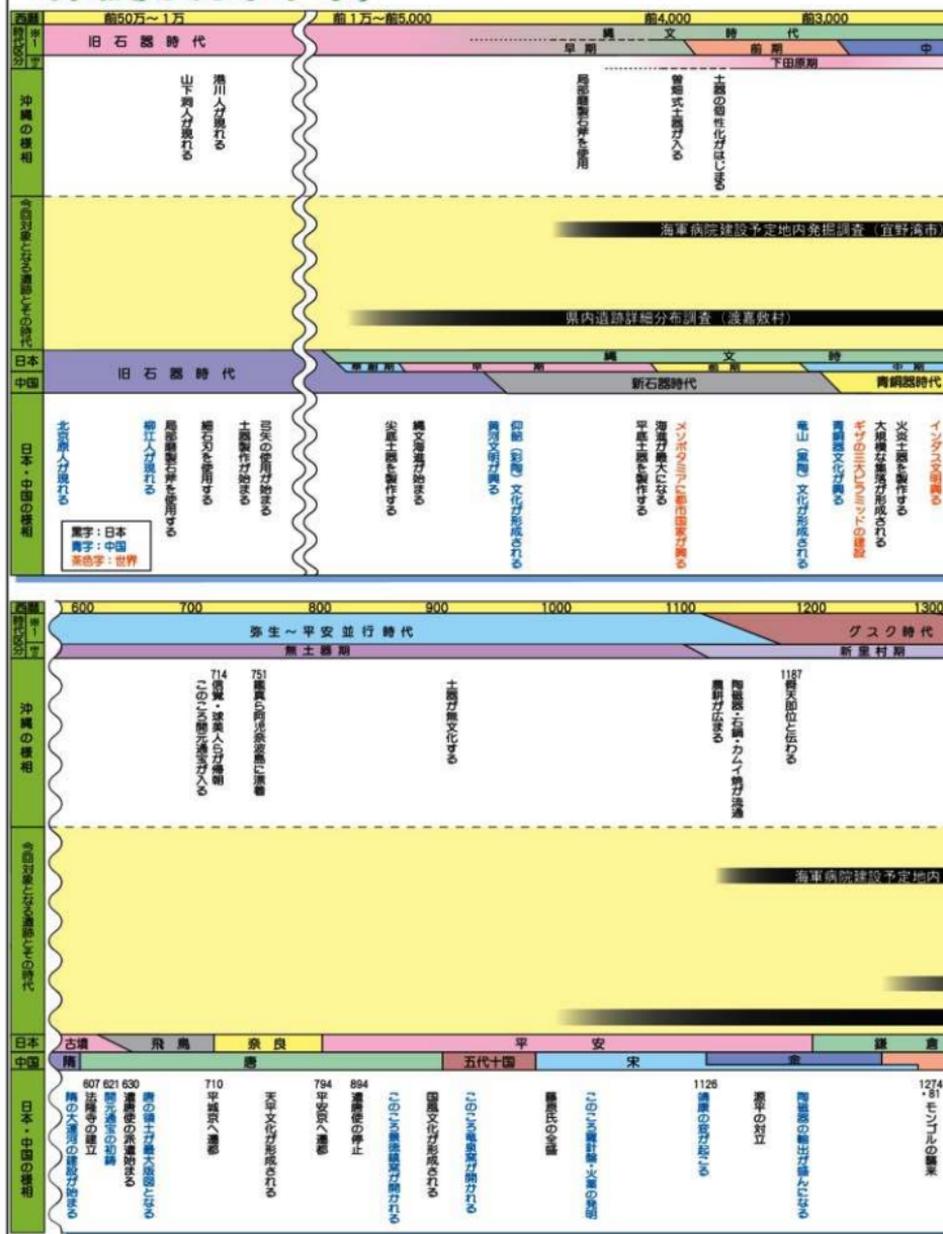


23号墓 墓室内

# 沖縄歴史年表

※1……沖縄本島時代区分

※2……八重山諸島時代区分





## 発掘調査のきっかけ（契機）とは

一概に発掘調査といっても、そのきっかけ（契機）や原因がいくつかあります。そもそも、遺跡などの発掘調査は考古学的な手法を用いておこなうわけですが、それによって過去の人たちの生活や行動を復元し、当時の歴史や文化を明らかにしていくことを目的にしています。

発掘調査は、大きく「学術調査」と「行政調査」のふたつに分けることができます。

「学術調査」とは、大学の考古学研究室などの研究機関がおこなう発掘調査で、学術的な目的意識（研究テーマ）を持って取り組まれます。

一方、「行政調査」とは、行政機関（教育委員会など）がおこなう発掘調査で、その契機や原因によって大きく3つに分けることができます。

まず、遺跡（埋蔵文化財）の適切な保護を目的とし、その所在・内容等を把握するための調査があります。

次に、保存・活用のための発掘調査があります。重要な遺跡の評価をおこなうための調査や、史跡指定された遺跡の整備・活用のために行われる調査も含まれます。

最後に、記録保存のための調査があります。この調査は、開発側との調整によって、現地保存ができなくなった遺跡について、開発に先立ち発掘調査をおこなうものです。この調査によって得られた記録類は、消滅した遺跡に代わって、遺跡の内容を後世に伝えるものとなります。

このように、発掘調査にも様々なケースがありますが、いずれの場合も遺跡にメスを入れることには変わりがありません。発掘調査がおこなわれた遺跡は二度と元に戻らないわけですから、より慎重な発掘調査をおこなう必要があります。

現在、県内では当センターや市町村教育委員会、大学の考古学研究室などが実施している発掘調査が毎年数十件ありますので、機会があれば発掘調査現場に足を運んでみてください。

県内の発掘調査情報に関しては発掘調査を実施している市町村教育委員会、若しくは以下にお問い合わせください

○沖縄県教育庁文化財課 記念物班 埋蔵文化財担当 TEL 098-866-2731

○沖縄県立埋蔵文化財センター 調査班 TEL 098-835-8752

---

---

平成 24 年度企画展  
「発掘調査速報展 2012」  
2012（平成 24）年 7 月 20 日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター  
住所 沖縄県中頭郡西原町上原 193-7  
電話 098-835-8752  
FAX 098-835-8754

---

---

# 行事予定のご案内

## 関連文化講座

入場無料・定員 140 名 会場：当センター研修室

### 第 52 回文化講座 発掘調査速報 2012 その 1

7月21日(土) 13:30～15:35 (13:00 開場)

- ① 基地内文化財分布調査 (宜野湾市)
- ② 海軍病院建設予定地内発掘調査 (宜野湾市)
- ③ 首里城跡発掘調査 (那覇市)

### 第 53 回文化講座 発掘調査速報 2012 その 2

8月18日(土) 13:30～16:05 (13:00 開場)

- ① 宮国元島上方古墓群発掘調査 (宮古島市)
- ② 県内遺跡詳細分布調査 (座間味村・渡嘉敷村)
- ③ 中城御殿跡発掘調査 (那覇市)
- ④ 戦争遺跡詳細確認調査 (県内各地)

## 企画展

重要文化財公開

### 首里城京の内跡出土品展

11月3日(土)～2013年5月5日(日)

## 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7 (琉球大学附属病院横)

TEL 098-835-8752

FAX 098-835-8754

- 開所時間 午前 9 時～午後 5 時まで (入所は午後 4 時 30 分まで)
- 休 所 日 毎週月曜日、国民の休日 (こどもの日、文化の日を除く)  
年末年始 (12月28日～1月4日)、慰霊の日 (6月23日)  
※祝日と月曜日が重なった場合は、翌火曜日も休所